参考資料

第３回中部圏長期ビジョン検討会　議事録

日時　令和３年８月１９日（木）１５：００～１７：００
場所　web 形式（事務局：整備局中会議室）

１．開会

○司会（林企画部長）

定刻になりましたので、只今から「第３回　中部圏長期ビジョン検討会」を始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、中部圏長期ビジョン検討会にご出席賜り有り難うございます。また、急遽、ｗｅｂによる開催に変更となりましたが、ご対応いただきありがとうございます。

私は、本日の議事進行を担当いたします中部地方整備局　企画部長の林でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、検討会開催に先立ちまして、奥野座長より、ごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○奥野座長

奥野でございます。大変お忙しい中ご苦労様です。

この会議は、今日で３回目になりますが、２回の会議で皆さまよりご発言いただいた趣旨等々を事務局の方でとりまとめていただいております。今日はその報告をしていただき、さらに審議をし、中間報告としてまとめて、後半での審議に備えていくということにさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（林企画部長）

ご出席委員のご紹介ですが、議事の進行上、出席者名簿にて、ご紹介に代えさせて頂きますのでご了承ください。本日は、鈴鹿市長　末松委員、愛知ドビー株式会社　代表取締役社長　土方委員　はご都合により、ご欠席でございます。

なお、ご欠席の方には、後日、事務局にて個別にご意見を伺う予定にしております。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

事前に郵送させていただきました資料、またはメールにて送付させていただいた資料をご覧ください。

議事次第、出席者名簿、資料１－１、１－２、資料２、資料３－１、３－２、資料４、参考資料の以上でございます。

また、Web 上で資料共有させていただきますので、参考にしていただければと思います。

報道関係の皆様につきましては、撮影については、ここまでとさせていただきます。

記者席を別室にてご用意しておりますので、引き続き傍聴される方は、別室へご移動をいただければと思います。

それでは、議事に入らせていただきますので、ここからの進行は奥野座長にお願いします。

２．議事

（１）中部圏の課題に対応した取り組み

○奥野座長

改めまして、よろしくお願いいたします。

次第にしたがって進めます。

最初に議事（１）として、「中部圏の課題に対応した取り組み」の紹介です。

今回は、カーボンニュートラルの取組みにつきまして、中部経済産業局からご報告をいただきます。それからもう１つ、スタートアップの取組みと言うことで名古屋市から紹介をいただきます。

はじめに、「自動車産業の大変革を見据えたサプライヤーに求められる今後の取組」ということで、経済産業省 中部経済産業局　産業部　次長　中川浩之様からよろしくお願いします。

１）自動車産業の大変革を見据えたサプライヤーに求められる今後の取組について

○中部経済産業局　中川氏

・資料 1-1　説明

○奥野座長

中川様、ありがとうございました。

中部経済産業局の取り組みに対してご質問等ございましたら、議事（３）と関連することもあるかと思いますので、議事（３）で合わせてご発言いただければと思います。

２）スタートアップ・エコシステムの形成に向けて

○奥野座長

それでは、続きまして、「スタートアップ・エコシステムの形成に向けて」として、名古屋市　経済局イノベーション推進部　スタートアップ支援室長　鷲見敏雄様よりご紹介いただきます。鷲見様、よろしくお願いします

○名古屋市　鷲見氏

・資料 1-2　説明

○奥野座長

鷲見様、ありがとうございました。両名より、大変興味あるお話をいただきました。

名古屋市への取り組みに対してのご質問も同様に、議事（３）で合わせてご発言いただければと思いますので、両名におかれましては、もう少しお付き合いをお願いいただければと思います。

では、次の議事に移りたいと思います。

（２）第２回検討会における主なご意見とその対応

○奥野座長

議事（２）「第２回検討会の主なご意見とその対応」

議事（３）「中部圏長期ビジョン　中間とりまとめ　素案」の説明を、続けて事務局より説明をお願い

します。

○事務局（田中企画調整官）

・資料２、資料 3-1，3-2　説明

○奥野座長

ありがとうございました。

これから委員のみなさんに、ご発言をお願いしたいと思います。

先ほどの、中川様、鷲見様のプレゼンに対するご質問、資料３－１、３－２の「中部圏長期ビジョン中間とりまとめ素案」に対してのご意見をいただきたいと思います。

資料３ですが、第１章は第１回会議の説明資料内容について改めて整理したものです。

第２章は、現行のまんなかビジョン及び中部圏広域地方計画よりとりまとめたものです。

第３章、第４章は、第１回、第２回会議で頂いた意見についてとりまとめたものになります。

今回も、名簿順に、内田委員、小川委員の順番でご発言をお願いしますが、山田委員が中座されるとのことなので、最初に山田委員にご発言をいただいた後、内田委員、小川委員と続けさせていただきます。

それでは山田委員、お願いいたします。

○山田委員

途中で中座することになってしまい、申し訳ございません。

今、ご説明いただいた内容について、私の方から気づいた点についてお話をさせていただきます。

前回から、様々な指摘について、資料の検討が進められて、バージョンアップして精度が上がっていると感じました。特に、SDGs のところなど、マッピングチャートが出来上がってきまして、それを見ると、網羅的に地域全体のビジョンを考える上では、○がついているものとそうでないものが一覧化されており、全体のビジョンを作るのであれば、○や△がついていないところをどうするかという議論が、今後進めばいいなと思います。

もう１点ですが、3 章の将来像と、4 章の実現に向けてというところの整合性をどうとるのかが１点、確認を要するところかなと思います。

今の様に、結構大きな地域全体のスタートアップ、教育等、様々な幅広い将来像を目指すのであれば、それに対応した重点連携プロジェクト、要はビジョンを描いたらそれにたどり着くまでの様々な打ち手が必要になってくると思いますけれども、今、描かれている内容では、防災とスタートアップと観光で、描かれているビジョンと、実際の施策が、本当にビジョンに到達するために必要なものが挙げられているのか、という点が１点。あとは中部地整・中部運輸が作られている計画、ビジョンということで、今日も経産局の方がご説明いただいたり等、多岐にわたり、他の様々な領域のものが入ってきたときに、その施策をアクションウォッチしていかなければいけません。本来のプロジェクトマネジメント、ビジョンに向けて何か年かで進めるところが必要になってくるわけですが、中部地整・中部運輸が、多岐に渡る分野で、実際にコントロールしきれるか、ウォッチしきれるかどうかが若干気にかかるところです。

ビジョンと一体の具体的施策、その施策を誰がちゃんと進捗具合を管理していくのか、その整合が取れれば、現実的に良いビジョンとなるのかなと思います。

私からの発言は以上となります。ありがとうございました。

○奥野座長

ありがとうございました。リプライは後でまとめてお願いいたします。

今ビジョンと施策、３章と４章の関係についてのご質問がありました。これは正に、後半というか、秋以降の議論でやることと考えてよいでしょうか。林部長いかがでしょうか。

○司会（林企画部長）

３章と４章のつなぎにつきまして簡単にご説明しますと、３章では地域間で補完連携をしていかなくてはいけないと記載しています。様々な連携があると思うのですが、その中で、中部圏域全体として、産学官の垣根を超えて広域的に取り組まなくてはいけない課題はどんなものがあるか、それが第４章に記載した５項目になると思っております。これらについての実行担保につきましては、中間とりまとめを作って以降、テーマごとに実際に実施する者を呼んで、委員に作っていただいた提言を踏まえて、どんなことができるのかということを詰めていきたいと思っています。

後半と言いますか、第５回、６回あたりに、ビジョンを実現するためには、誰がどんなことをやっていくのかというところについて詰めていきたいと思っております。

○奥野座長

山田委員いかがでしょうか。今のような回答ですが。

○山田委員

ありがとうございます。そうですね、後段でということであれば、まさしくそこで深く議論されればいいと思います。

そういう意味では、今は前段のところでという話で、中部らしさの特徴のところで、強み・弱みがある中で、他と比べてどうか、ということですね。前回と同じ比較になりますが、真ん中で人が集積している、ネットワークの中心だということは非常によくわかりました。ただ、歴史とか地域らしさみたいなものは、他の地域でも結構たくさんあったりするので、その中で中部がどの辺に秀でているか、比較対象と比べてどうかというものがあると、なおそこを伸ばしていくというところに光が当たりやすいのかなと思いました。

○奥野座長

ありがとうございました。それでは、内田委員お願いします。

○内田委員

私の方からも、いくつか気になった点をお話ししたいと思います。

先ほど山田委員からもご指摘がありましたが、全体の構成や章立てについては今後考えていくとのことでしたが、その際にそれぞれの項目毎の接続性についても考慮いただきたいと思います。また、第１章では、その下に１～８までありますが、２章・３章は１～２で、その下に括弧書きで（１）～（３）まであります。第１章だけが番号が多くてアンバランスな印象ですので、例えば、１と５、２～４、６

と７、のようなイメージで少しまとめられるのではないかと思いました。

全体の構成と章立ての接続性・連動性に関しては、１章の社会経済情勢の変化があって、次に、中部圏の特徴、持ち味があって、その先に目指すべき将来像、理想像、そして実現に向けた具体的な施策という流れになっていくのが自然だと思います。その流れの中で、３章のところで産業的な要素が欠けていることにものづくり愛知として違和感を感じます。今後、QOL と地域間連携に合わせて加えることを検討していただければと思います。こうした要素があれば、スタートアップ育成にも繋がり、関連性が出てくると思います。

全体的な印象は以上ですが、あとは細かい点を含めて気になった点を順に指摘していきますと、強みのところで、日本の真ん中というのはリアルな立地条件として重要ですけれども、一方で、時間や場所にとらわれないメリットを色々なところで強調していますし、そこから地方分散や地方移住というワードも出てきていますので、両者の整合性は上手く取っていただきたいと思います。

それから、充実したネットワークインフラという表現に関しては、後ろの方で、インフラの充実・活用という表現がありますので、場合によっては、方向性に関する箇所では拡充という表現にして差別化した方がいいのかなと思います。

あと、リアルな多様な空間という項目では、実際にグラフや文章を見てみると、職住近接の視点を説明されていましたので、リアルな多様な空間からイメージしづらい内容なのかなと思いました。

また、男性中心の社会というのが弱みのところに入っているのですが、ジェンダー格差を自ら公表しているような面もありますし、これも内容を見ると、女性の転出超過のグラフが出ておりましたので、女性が活躍できていない産業構造や就業構造という内容であれば、それに合った表現に替えた方がいいのかなと思います。要するに、現状では女性にとって魅力がなくて刺激や面白味がないため、東京などの首都圏に流出しているということだと思います。加えて、就職年齢での転出に関しては、ＩＴや観光などのサービス業や女性が希望する事務系の職種の採用数が少ないという点が弱みだと思いますので、そのあたりに繋がる項目名を検討していただければと思います。

強み・弱みは、時代によって表裏一体だと思うのですけれども、堅実な企業風土という地域性や県民性が今までは強みとして機能してきた一方、先ほどのスタートアップのご説明にもあったように、リスクを取って新規事業分野を開拓していくような若者や女性、外国人等が集まってきてほしい、出てきてほしいという期待がありますので、一度、強み・弱みをもう少し精査してもいいのかなと思いました。

あと、これは国土交通省としては直接は関係ないのかもしれませんが、当地は愛知県が農業産出額で全国８位と都市部では珍しい農業県ですので、農業の６次産業化やスマート農業などの記述があってもいいのかなと思います。スマート農業のスタートアップもいくつか出てきています。

さらに前回も申し上げましたが、ＱＯＬの定義として、ワークライフバランスのさらに上を行く概念というような中部エリアとしての再定義をした上で、強みとして強調した方がいいと思います。

最後ですが、これは表現の問題なのですが、p 21 のところに、土着的文化という文言があるのですが、土着は差別的と捉えられる可能性もありますので、これに変わる表現をすぐには思いつかないのですが、何か別の表現に代えた方がいいと思います。p 23 のデジタル化から取り残される地域という表現も、表現として少し検討していただけると有り難いです。以上です。

○奥野座長

ありがとうございます。

土着的文化という表現はまた修正していただければと思います。

続いて、小川委員、お願いいたします。

○小川委員

大きくわけて２つのコメントをしたいと思います。

１つ目は、p21 のあたりにある目指すべき将来像についてです。これからのこのエリアがどういう方向を目指していくかというところが書かれてありますが、そこで大きく２つの柱があって、１つは住んでよし、訪れてよしという地域を目指すと。もう１つが、それぞれの色々な地域が補完し、連携しながらやっていくということになっています。これは全く問題ないのですが、議論はあるかもしれませんが、もう一つ、成長する地域であってほしいと思います。

なんとなく、このままだと、成熟社会でこのままのんびり暮らしていけばいい、頑張ってやっていきますみたいに取られかねないので、柱を立てるべきかわかりませんけれども、これまでものづくりを中心に、このエリアは日本、世界を引っ張ってきたわけですので、今後もこのエリアがその役割を果たしていく、その方向を目指していくというフレーバーがあるといいと思います。

多分、どこに住みたいかとか、どういうところに行ってみたいかというと、成長しているところに皆が集まってくると思います。成長と言っても、今までのようなアンバランスを伴ったり短期的な成長を求めるのではなくて、バランスグロース、スマートグロースみたいな、持続可能で色々なショックがあったとしても、この地域の重層的、あるいは多様性に富んだ産業構造や地域の経験から色々なショックにも強い、そう簡単には影響を受けない、といった頑健性を持った成長をしていく地域なんだということがあるといいと思いました。

名古屋市の鷲見様の話を聞いていて、なるほどと思ったのは、ディープテックという言葉の大事さです。鷲見様への質問になってしまうかもしれませんが、名古屋市もずっと長く、スタートアップやベンチャーの支援をされてきていて、いくつか成功事例もあると思うのですが、外から見ると名古屋発の成功したベンチャーのロールモデルのような「これが名古屋だね」というものが少し見えにくくて、それを宣伝、どうやって広めていけるかということがあったりすると、後に続く人たちがロールモデルを見て、ああなりたいということが分かるのかなと思います。もしそういう取組みがあれば教えていただきたいと思いました。

２つ目は、将来像の実現に向けてということで、ＱＯＬを大事にしていくのはその通りで、私もそういう地域に是非住みたいと思うのですが、その戦略の１つとして大事であると思ったのは、今もやっているのですが、公共空間をさらに活用していくということです。最近は久屋大通公園等でやられていますけれども、ああいうような形で、単に河川とか、公園といったものを用意するだけではなくて、利用しやすくて、近所の人たちも使える、使いやすくなる、おしゃれだといったフレーバーを持った公共空間にどんどん活用していくようなものも、ＱＯＬを高める１つの戦略になりえると思います。

また、既存の公共施設もＰＦＩ等で官民協働して、グレードアップしていく、単に図書館がある、蔵書数が何冊ということではなくて、そこにいけばＷｉ－Ｆｉが完全にフリーで、お茶でもコーヒーでもただで飲めますといったような、もう一段階高いレベルの図書館なり公共施設にグレードアップすることも、ＱＯＬを高める１つの手段ではないかと思います。名古屋とか中部圏の図書館、すごいよね、といったものがあったりするといいかと思います。今のイメージだと年配の方が、新聞や週刊誌を読みに来ていて、中学生が勉強しに来てもやる場所がなくて、中学生は行き場がなくて、Ｗｉ－Ｆｉを求めて

マクドナルドに行ってみんなでゲームしていたりするという話を聞くことがあります。若い人が追い出されて、年配の方に占用されるような状況なのですが、それが逆転するようにレベルアップできるといいと思います。

あとは、非常に細かい点なのですが、多分、これから改訂されていくと思うのですが、色々なデータの出典が古いところがあり、例えば2005年のデータを使っていたりするとまずいと思います。

内田委員がおっしゃっていた、リアルな多様な空間というキーワードは変えた方がいいと思います。男性中心社会というのも、少し言いすぎている気がして、女性への訴求力が弱い地域といったようなフレーバーなのかなと思っています。

最後に、歴史とか文化を書かれたところがp17にありますが、歴史上の人物もいいのですが、今、新しい文化が出てきている、といったものもあるといいかなと思います。中部地域ですと、食の文化が非常にユニークで、多分、売れると思いますので、食の文化、農の文化も一言、二言あるといいかなと思います。私からは以上です。

○奥野座長

ありがとうございました。

名古屋市の鷲見様、今、小川委員の方から、スタートアップについて、これまでとの違いは何かという質問がありました。名古屋市のインキュベーターをはじめ、スタートアップを長くやってこられたということは承知しておりますけれども、非常に素晴らしい施設があるものの、成果はどうなのかという報告があまり出てまいりませんが、今のスタートアップのこれまでとの違いは何かという点につきまして、もし何かご発言ができることがあればお願いします。

○名古屋市　鷲見氏

わかりました。

過去の話、今の話も含めてなのですが、ロールモデルとしては過去成功しているのも、今成功しているのも、大体、産学連携によって生まれてきているというか、大学発のコアな技術を持ったスタートアップではないかなというふうに思っています。

過去の話、これは過去すぎるので、ここの事例では書くことができないレベルですが、元々名古屋で一番成功しているのは、指紋認証でシェアナンバーワンを持っているディー・ディー・エスという会社ですね。大体、皆さんが使われてるもののほとんどに使われていたりするんですけれども、それは名古屋工業大学の研究室と一緒に、名古屋市のインキュベーションの中でも育って、名古屋の中で上場したという事例が、10年以上前にあります。

それが1つのベースになりつつ、最近のスタートアップは当時のベンチャーとは違って、投資を受けて一気に成長するというビジネススタイルの中でやっていかなければいけないので、これを、この地域のテック系のスタートアップの中に入れ込んでいくということが、非常に重要だと思っています。

技術開発だけではなくて、スタートアップの意識を醸成していくことが大事だと思っています。

その中で、最近生まれているロールモデルということでいきますと、これは現在進行形なので書けるかどうかというところがあるのですが、今、名古屋のスタートアップで一番大きいのは、ティアフォーという会社で、森川委員がお見えになる中であれですが、自動運転の研究をされているスタートアップ

で、世界レベルになっていて、日本の中でもトップ10に入るスタートアップになっています。

そのほかにも、名古屋の中で注目を受けているのは、ものづくりとか、自動車関係の研究開発からきている素材系のスタートアップとか、この地域の強みを活かしたものになります。

先ほど、農業という話もあったのですが、農業も強みなので意外と面白い研究が進んでいるのですが、この地域の研究と産業界の強みを生かした産学連携で進んでいるものが大体メジャーになってきていて、実はさきほどのティアフォーがあるので名古屋は評価されているという1つのロールモデルではあります。なかなかこの規模のスタートアップは他の地方都市ではないものですから、産学連携とこの地域のマッチングみたいなところで一気にブレイクするところが出てくるもではないかと思っています。

○奥野座長

ありがとうございました。

小川委員のおっしゃった成長という概念は非常に大事だと思います。発言の中にもありましたが、高度成長期の成長は、ＧＤＰ、ＧＲＰが高いということが快感になっていて、公害問題等、色んな問題が同時に出てきたのですが、皆さん、生活環境はよくなるし、所得は伸びるし、かなりの程度満足していらっしゃったということはそうだろうと思います。

今の時代の成長というのは、もう少し違う概念も色々と考えなければいけませんが、人口減少、高齢化の中の成長ですから、成長していくということは、特にＧＤＰが成長していくことが非常に大事だろうと私も感じています。

ありがとうございました。

続きまして、加藤委員お願いします。

○加藤委員

皆さんからもご指摘があった通りで、まだ構造的にかちっとなっていないと思いますので、そこは後半で詰められるのかなと思っています。

皆さんがおっしゃってくださいましたが、農業が抜けているのではないか、食が抜けているのではないかというのは、まさに名古屋を象徴しているのではないかと思っています。私は静岡なのですが、静岡も同じで、女性の転出が多い地域で、すごくよく分かります。毎回申し上げている通り、女性には居にくい地域に住んでいるというのが実情ではないかと思います。

居にくいというのはどういうことかというと、評価されにくいんですね。言葉が通じないというか、価値観が共有できないということで、居場所がなくなりがちです。

これが、男性が多い社会でなかなか難しいところで、経済発展で、同じ単一性別で、同じ価値観で進んでいく時代はそれで良かったのかもしれませんが、それが弱さのところに書かれているのだと思います。

ＧＤＰ的な成長もあいまいながら、ＱＯＬを高めていかないと、なかなか発展がなく、いい住みかにならないというところが書かれていると思うのですが、難しい話ではありますが、幸せって何なのかという話でいくと、やはり、継続的な成長と、個々の社会関係性が充実してくることが、多分、社会関係資本という言葉が出てきていると思うのですが、社会関係資本が多い人ほど幸せに感じるということは出てきていると思います。そういう意味で、女性が幸せを感じにくいということはその通りだと思いますし、評価されないというところもあると思います。

農業や食も含めて、具体的に言うと、愛知県の農産物と静岡県の農産物を比べると、愛知県の農産物の方が 2/3 ぐらいの価格になってしまうんですね。「愛知県」となっただけで、大量でしょ、ということで安くなってしまうのです。せっかく大きな農産地になっていますし、岐阜県も含めた中部圏全体で言うと、違う季節性を持った農産地域を持っていたり、一部、災害に弱い地域もあったりして、支え合いながら、農業や食全体の構造を消費として支えるのが中部なので、産地と消費地がつながりあって、社会資本である農業というものを支えあうみたいなところも、きちんと明記されると良いと思いました。

最後に、様々な企業の経営者と話をすると、「美」に対する感度が低いのが大きな問題ではないかと思っています。売れればいいということで勝ち組になってきた地域であって、それはそれで経済を支えてきたのですが、何が美しい街並みかを判断ができる人たちが、あまりにも上層部に少ないと思います。

美しさみたいなものを、もっと市民レベルで楽しみながら接することができるような機会を、名古屋を中心に創っていくのだというような打ち出しをしないと、これは絶対実現できないと思っています。

美というものを少しでも分かる方たちが増えていかないと、全部が崩れてしまうので、それぐらい大事なものとして、子供のころからきちんと美術の教育をする、美を楽しむということを取り入れていかないと、スタートアップも生まれにくいですし（それがクリエイティブなので)、そこをもう少し強調して書いていただけると嬉しいなと思います。

色々と分散してしまいましたが、私からの意見は以上です。

○奥野座長

大変関心のある話、ありがとうございました。

続いて、朽木委員お願いいたします。

○朽木委員

私は総務部におりますので、皆さんのような専門的な立場での意見はなかなか難しいので感想めいた話になってしまいますが、第１回、第２回と、色々な方々がたくさんのコメントをされたと思います。私も色々なことを述べさせていただきましたが、その内容について、うまく事務局の方で修正していただいているなと言う感想でございます。

トヨタの方からは、第１回の検討会で、カーボンニュートラルの話、あるいは人口減少、少子高齢化に伴う労働力の低下の話、取組み状況などをご紹介させていただきました。

第２回の検討会では、個社だけでやるのではなく、できるだけ地域と事業が連携するということが、新しい価値を生んでいくのではないかという内容についてのエッセンスは、ふんだんにもりこまれた内容になっていると思います。まとめていただき、本当にありがとうございます。

中部圏の目指す姿、将来像というのは、やはり、第３次まんなかビジョンの基本理念がベースにありながら、社会情勢だとか、変化にいかに対応した提言になっているかという視点がポイントかなと思っています。

そういう意味では、最近増えている自然災害の激甚化、頻発化に対しても、しっかりと防災の観点で盛り込まれていますし、愛知ものづくりの産業活性化の拡大に向けたスタートアップの話も十分に盛り込まれておりますので、非常にいい内容になっていると思います。

以上感想ですけれども、終了します。

○奥野座長

ありがとうございました。続きまして、榊原委員お願いいたします。

○榊原委員

まず、皆さんがお話をしていた男性中心のところなのですが、資料に引用されているデータが男性－女性の差で説明されているのでそのように整理されているのは分かるのですが、世の中の流れでいうとダイバーシティの話なのですよね。ジェンダーのみならず国籍等も含めた多様性で整理していただいてもいいのかなと思います。

私の方から話をしたいのは、２点です。１点目は、前回、座長の方から“学んでよし”というコメントがあり、個人的に非常に刺さりました。今回の、社会像の実現のところで、鷲見様からもお話がありましたけれども、学校の関わりとか、産学の関わりって非常に重要だと思います。スタンフォード大学を中心としたシリコンバレーとか、そんなイメージを重ねると、名古屋って非常に魅力あるところに写るように思います。特に、（第４章１．基本的な考え方の中に）組織、分野の垣根を越えたと記載されていますが、やはり、産学官の関係をしっかり整理して、各々の役割を果たしていくことが非常に重要なところかなともいます。

また、学のところを（キーワードとして）切り出してよく見ていくと、すべての要素に絡んできてまとまりがある感じになる気がするので、少し検討いただければと思います。インキュベーターや（スタートアップ）ファイナンスの話もそうですが、やはり学と官の関りがしっかりしており、そこに産業が絡みながら発展していくというように整理いただけると非常に読みやすくて魅力あるものになるのかなと思いました。

２点目は、私の専門になってくるのですが、カーボンニュートラルのところです。カーボンニュートラルポートというしっかりした重要なプロジェクトを中心として展開されているのですが、【全ての産業が一体となったカーボンニュートラルへの転換】という、現時点での記載では、少し具体性に欠ける印象です。色々と考え方があるのでしょうけれども、やはり中部地域で大事なのが、水素やアンモニアといった脱炭素燃料だと思います。トヨタさんもお見えですし、JERA もアンモニアの利用を碧南火力で進めています。脱炭素燃料をしっかりと中部地域で進めていくことを通じて、新たな産業を興し次のビジネスにつなげていくというような切り口もあります。これには、基本となるインフラ整備もしっかりやっていく必要があることから、その辺りを少し整理して、触れていただけると非常に内容の濃いものになるのかなと思いました。

以上、2 点でございます

○奥野座長

ありがとうございました。続きまして、戸田委員お願いいたします。

○戸田委員

様々な意見をうまく反映いただいており、ありがとうございます。

私からは４点あります。

１点は資料 3-1　p16 で、既に、内田委員、小川委員から意見がありましたが、リアルな多様な空間という項目に対して、中身で描かれていることが、住環境、通勤環境になっていて、アンバランスにな

っています。タイトルを直すか中身を直すかだと思うのですが、私としては項目として、中部圏はバーチャルな世界や技術がいくら進んでも、リアルに多様な空間があることが強みだと思うので、タイトルに合わせた中身にするべきだと思っています。

ここは、ファクトベースで書かないといけないと思うので、何か情報が必要だと思うのですが、中部地整では、伊勢湾再生推進会議で伊勢湾流域圏の陸側の情報などを集めていると思うので、そういった情報を盛り込んで、リアルな多様な空間という表現に合うファクトをあげていただくといいと思いました。

２点目は、こちらも既にご意見がありましたけれど、目指すべき将来像の２つの柱のところで１つめの「QOL の向上（住んでよし、訪れてよし）」という項目に対して、もう１つの項目が、「地域間の補完・連携」ということで、将来像を表す言葉のトーン差が、小説と学術書のタイトルぐらい違うような感じを受けました。特に２点目の「地域間の補完・連携」っていうところが少し固いのかなと思ったのが正直な感想です。うまい言葉がないか考えたのですが、すごくいいアイデアは思い付かなかったのですが、一つの案として思ったのは、「活力、魅力を高め合う地域間の連携」のような、成長をイメージできる言葉と、何のためにつながっているのかがイメージできるような言葉を入れて、将来像をあらわす言葉としていい項目名を検討いただくのがいいのかと思いました。

３点目は、具体的な将来像の実現に向けてやる重点連携プロジェクトで、これは単に言葉についてですが、最初に防災という言葉がきているのですが、書かれている項目や取り組む項目が、減災や強靭化ということによりマッチする内容が書かれていると思いますので、防災、減災、強靭化という書き方にするのか、強靭化の中に防災、減災が含まれているとするのか、防災だけだと、ちょっと言葉が意味する守備範囲が狭く感じるというところが１点です。

最後の４点目として、防災の中の２つの大きく取り組むべき項目として、南海トラフの話と流域治水の話が書かれているところは、非常に賛成するところです。ただ、流域治水のところに、特に高潮の話は出てこないんですよね。この地域は伊勢湾台風の経験を経て、地域として水防災に備えてきたことがあるので、項目として立てるまではいかないのかもしれないのですが、流域治水等における水災害対応などといった表現で、高潮対策のことが含められる方がいいのかと感じました。

以上です。

○奥野座長

ありがとうございました。

南海トラフの議論は、この地域は随分以前からやられていまして、政府の強靭化のいくつかのモデルにもなっています。多分、高潮は皆さんその中で対策等を考えていらっしゃると思うので、記述するとしてもそういった形になるのかなという感じがします。また、事務局の方でお考えください。

それでは、豊田委員お願いいたします。

○豊田委員

全体的な話なのですが、中間とりまとめの素案の、特に３章の中部圏の目指すべき将来像ですけれども、書き方として、一般論みたいな話と、こうなりたいみたいな話がごっちゃになっていて、目指すべき将来像と謳いながらも統一されていないような感じがします。

この地方の背景があって、こういう理由で、こういう方向性を目指すんだっていうように、と統一し

た方が読みやすいし、わかりやすいんじゃないかなと思うんですよね。

今だと、あるファクトだけを書き連ねているような感じがするので、もうちょっと描き方の整理とか、成熟さがちょっと必要なのかなっていうふうに思いました。

それと、経産局からご説明頂いたサプライヤーに求められる今後の取り組みについて、意見というか、お聞きしたいなと思ったのですが、確かにエンジン部品とかトランスミッションが電動車になって、特に電気自動車になるといらなくなってくるんだと思うのですが、世界的な流れからすると、ハイブリッドっていうのはおそらく含まれない流れにあるんじゃないかなと思うのです。特にこの地方、トヨタさんもありますけども、ちょっと違う方向に行きつつあるというか、世界的な潮流にちょっと取り残されつつあるよう感も最近あります。特にエンジンやトランスミッションが要らなくなると、まさに大規模な産業転換というか、特に下請け企業や第３次、第４次下請けからすると、非常に大きな影響があるかと思います。

そういう意味で経産局として、大きな流れの中で、そういう産業転換みたいなことを促していくっていうのは、実際、今も既にやってることなのか、もちろん企業は企業戦略があって良いと思うんですけれども、産業全体として捉えた時に、どこまで関わっていけるのかなということが、知りたいところです。

○奥野座長

はい、ありがとうございました。

中川様、恐縮ですが、今のご質問へお答えいただけますでしょうか。

○中部経済産業局　中川氏

電動化が進むというのは間違いない話でございますけれども、先程もご説明しましたように、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車が伸びていく中で、全体としては、ＩＥＡの予測値の数字を見ましても、しばらくはエンジン車が残り、ここ数年はまだそういう状況かと思っております。ただし、いずれご指摘の通りピークアウトするかと思っております。

一方、既存の部品メーカーは今の仕事が忙しいという状況で、特に、中堅中小サプライヤーの皆様にとっては、今の仕事をこなすだけで大変になっている現状がございます。

私どもとしましては、電動化が進む中で、内燃機関の部分が減っていくということは、当然見込まれるわけでございますので、そういったことが将来起きていくという、危機意識、問題意識を喚起するような形で、最新の動きについてはタイムリーにお伝えをして行きたいと思っております。そうした将来を見据えた業種業態転換をやろうとするような取り組みをサポートするため、持っている技術がどういう所に活かせるのか、新たな領域に入って行くにはどういう課題があるのか、そういった問題意識を持っている事業者に対して、是非、今年度、様々な専門人材などを活用した伴走支援をトライアル的にやっていきたいと思っているところでございます。

○奥野座長

豊田委員よろしゅうございますか？

○豊田委員

はい、ありがとうございました。

○奥野座長

それでは、森川委員お願いします。

○森川委員

前回、目指すべき将来像について、QOL の向上と、２番目がネットワークという話で、ちょっと違和感があると申し上げました。

私が申し上げた１つの案として、QOL の向上は自分が幸せになるということで結構です。２番目は日本の真ん中としての中部の役割とそれを活かすということで、３つ目を立てて、世界の中の中部というようなまとめ方があるのではないかというようなことを申し上げました。

その後、事務局で考えていただいて、今回のように、２番目を地域間の補完連携にしたということでご説明に来られまして、はい、結構ですと申し上げたのですが、今、もう１回見ると、やっぱりちょっとこれでは、先ほど戸田委員がおっしゃったように、文言としてそろっていないということがありますし、世界の中の中部という観点が抜けすぎているなと思いまして、３本目の柱として「世界的課題にチャレンジする中部」みたいなものがいるんじゃないかと思います。

その例は、先ほど榊原委員もおっしゃったように、カーボンニュートラルですね。それから、河川海洋汚染、この地域は大河川もありますし、海も多いということ、それから、食料自給の向上とか、エネルギー地産地消ですね、それから自然保護みたいなそういう世界的なことを取り組んでいく。このようなビジョンはなかなか首都圏や京阪神ではそぐわないようなことがあるのですが、この中部はそれができる自然もたくさんあるし、やれるところではないかということで、やはり私は３本目の世界的課題にチャレンジする中部というのはあった方がいいのではないかと思いました。

２番目の文言も、戸田委員がおっしゃったように、言葉が QOL の向上と揃っていなさすぎるので、戸田委員も代案を出されましたけれども、私も、地域の中で支えあってお互い幸せになるというようなことを匂わすような言葉にした方がいいのかなと思った次第です。

以上です。

○奥野座長

ありがとうございました。

まだ時間がありますので、私の思った意見を発言させていただきます。

途中でも色々と口を挟ませていただきましたが、最初に思ったのは、森川委員のご発言にあった、世界の中の中部、国際的な視点をどんどん入れてほしいという点です。

名古屋の企業は、トヨタもそうですが、内も外もないんですね。私も大学教員を長くしておりますが、大学の研究の方も、学生は日本人が多いのですが、研究の方も内も外もないんですよね。英語を読んだり書いている方が多いので、ところがこれが自治体になりますと、その視点が抜けてしまうんです。全く出てこないという感じがありまして、その落差が随分大きいんですね。

しかし、今日、鷲見様のお話をお聞きしておりますと、やはりスタートアップでは国際的な視点が入ってこざるを得ないというところで、シリコンバレーの話でありますとか、そういったところから入ってきているのだということは感じました。

国際的な視点というのは、森川委員がおっしゃるような方法で立ち上げるのがいいのか、この構成の中で強化していくのがいいのか、それはまた事務局でお考えいただきたいと思います。

２番目に私が思ったことは、加藤委員から美というご発言がありましたし、文化といってもいいと思いますが、これも鷲見様のご報告の中でスタートアップのレクチャーというのは、文化から始めるという話があって、それはとてもよいことだと思いました。

前回も発言したかもしれませんが、世界運河会議を５月に３日間やりました。オーストリアのリンツという小さな町ですが、スタートアップが非常に活発で、そこからお２人、夜通しお付き合いいただいたんですね。やはり、文化があることが、どういう分野であれ、人材が集まってくるベースだという話があり、それがとても印象的でした。

私は以前、名古屋大学にいたのですが、将来構想を議論しているときに、名古屋大学に芸術学部を作ろうとしたことがあります。今の名大前のグリーン広場のバス停のところに、芸術ホールを作って、できれば、県立芸大と合併できないかという話をしていたのですが、それは色々な理由で実現しませんでしたが、世界の一流大学になっていくには、そういった側面が非常に大事だなと思っております。

それでは、林部長、全体を通してリプライをいただいて、時間のある限り、またご発言をいただけますようお願いします。

○司会（林企画部長）

委員の方々、ご発言をありがとうございました。

おっしゃられるように、構成が不十分で乱れているところが多々ありましたので、ご指摘を踏まえ修正させていただきます。文言につきましても、報告書に馴染まないような使われ方もありますので、修正したいと思います。

いくつか、抜けている観点があったということで、農業の観点、食の観点、それから学との連携の部分、国際の観点、そういったところについて、改めて追加補強させていただきたいと思います。

今回、デジタル化という大きな流れの中で、これからの中部圏のビジョンをどうするのかということでまとめさせていただいたのですが、共通して目指す地域の軸として、QOL を打ち出したことが大きいと思って整理にさせていただいています。

多様性、個性がある中部の特性を伸ばすという意味で、ダイバーシティということでおっしゃられていたと思いますけれども、多様性を生かしながら、個性を磨いて、地域を魅力的にしていくというような方向性と、地域が補完連携するという、インクルージョンよりもさらに進めて、コーポレーションというような、連携、助け合っていくことをもっと前向きに意識するということで、今回まとめさせていただきました。そこにＱＯＬだけではなくて、さらに世界という観点も入れていくことを今回思いました。対応の仕方については検討させていただきたいと思います。

第４章については、補完連携の中で、個別に各地域が連携していくことになるのですが、特に広域的で重要な課題は、協議会等を作って、地域が一緒になって考える、産学官が一緒になって考えていかないといけない。そういうものを厳選して、選択して集中するのだという、そういう意味でこの５つの課題があると思いまして、防災以下、地域が一緒になって連携して取り組む、産学官、国県市町村が一緒になって考えるものはこのようなテーマかと、ピックアップをしていただいたと思っております。これは次回以降、中間とりまとめが出た段階で、それぞれのテーマごとに協議会みたいなものがございますので、提言を踏まえて、今後どのようにしていくのか、第５回、第６回の検討会で、またご意見をいた

だきながら、実行性のあるものにしてきたいと思っています。
いずれにしましても、今回いただいた意見について、改めてとりまとめさせていただいて、ご相談させて頂きたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○奥野座長
ありがとうございました。残りの時間で、委員の皆さまから追加発言がありましたらお願いしますが、その前に堀田局長から何かありましたらお願いします。

○堀田局長
奥野座長をはじめ、委員の皆様方、貴重なご意見をありがとうございました。前回は災害対応で参加できなかったのですが、今回参加させていただいて、生の声を聞かせていただいてありがたいと思っております。
実は、事務的な打ち合わせの中で、農業、食、世界の中の中部という観点はやはり大事だろうという議論はしておりました。今回は、とりあえず報告書の原案ということで作らせていただいて、皆さまの意見をうかがって、さらに肉付けしていきたいなと思っておりましたので、本当にありがとうございました。まさにその通りかなと思っております。
今、林部長の方からも話がありましたが、Quality of life というものを明確に掲げて、1つの目標にしたいというところにあります。ただ、この言葉というのは、非常にあいまいなんですよね。ここにどういう思いを込めるか、どういう哲学で向かっていくかというところが、すごく大事だと思っておりまして、それは全てが関連してくると、成長するということであったり、美とか文化とか芸術という観点ですね。このようなところを踏まえながら、社会をどう作っていくか、これからまとめていくところもあると思いますし、伸ばしていくところもあると思います。そのようにしていきたいという思いをしっかりとここに込めていきたいと思っております。
是非、次回以降もまだまだありますので、様々なご意見をいただきたいと思いますし、後世に、これから100年、200年成長していけるような地域に寄与していきたいと思っておりますので、是非よろしくお願いいたします。
以上です。

○奥野座長
ありがとうございました。まだ、若干時間がありますので、委員の皆さんで発言がございましたら発声をお願いできればと思います。
内田委員、お願いします。

○内田委員
先ほど、森川委員から、将来像のところで世界的課題に挑戦するとかチャレンジするという表現があった方がいいというお話がありましたが、そうした視点は必要になると思います。
また、p5に製造業の電力消費量のグラフがあるのですが、愛知県がずば抜けて消費していて、SDGs的には悪の権化のようにも見える状況になっていますので、冒頭で発言した3章における産業的な要素の項目として、SDGsに貢献する産業群または産業構造といったような表現で、前向きなトーンで章立

てすることをご検討頂ければと思います。

農業分野に関しては、他の委員の方々にも賛同いただけましたが、TPP との関連で、大手自動車メーカーが農業分野の生産性向上に向けた技術的なバックアップもしていますので、そのあたりも事例として入れられる可能性はあると思います。以上です。

○奥野委員

ありがとうございました。他はいかがでしょうか。

事務局には、これまで前２回の議論をよく取り入れてまとめていただきましたけれども、本日、色々と意見をいただきましたので、今回も取り入れていただいて、ブラッシュアップして、中間とりまとめを作っていただきたいと思っております。

今度、４回目で中間まとめの案がもう１回出てくるのですか。

○司会（林企画部長）

次回、今回のものを修正して、大体とりまとめられるように準備したいと思います。

○奥野委員

そういうことで、次回、４回目にさらにブラッシュアップしたものが出てくるということでございます。それをベースにしながら、後半戦の議論に入っていくということになります。よろしくお願いします。

今後の予定があれば、事務局からお願いします。

（４）その他

○事務局（田中企画調整官）

ただいまの林部長のコメントからもありましたように、今後の予定でございますけれども、本日、各委員から頂きましたご意見踏まえて、今年度秋頃、中間とりまとめ公表に向けてとりまとめを進めて行きたいと考えています。

次回の検討会の開催は、後日、事務局よりご案内をいたします。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

○奥野委員

次回検討会については、事務局より連絡があると言うことですので宜しくお願い致します。

以上をもって、本日の議題はすべて終了しましたので、進行を事務局へお返しします。

ありがとうございました。

３．閉会

○司会（林企画部長）

本日は、多くの貴重なご意見を頂きまして有り難うございました。

本日の議事録につきましては、各委員へ確認後、中部地方整備局のホームページに掲載させて頂きます。

以上をもちまして、第３回 中部圏長期ビジョン検討会を終了させて頂きます。
本日は、長時間にわたりありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

以上